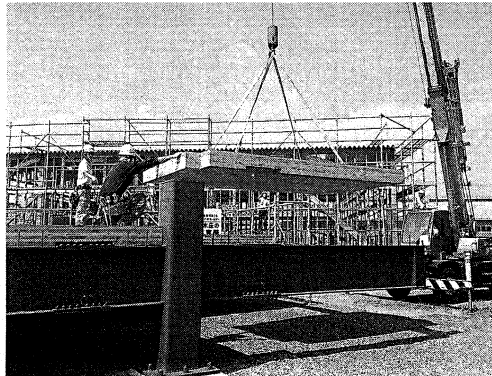


# CLT床の高い施工性を確認

## 鉄骨フレームので施工実験を公開

山佐木材



CLT床施工は設置、調整を合わせても5〜6分ほど

山佐木材（鹿児島県肝属郡、佐々木幸久社長）は8月27日、同社下住工場内で、杉CLTを用いた木床の施工性確認実験見学会を開いた。非木造建築の床にCLTを使用することを想定し、10・8×7・2材（3・6材モジュールを想定）の柱・梁鉄骨造フレームの実大モックアップを作成。1・8×3・6材×7層タイプの杉CLT床12枚を縦横に施工し、実際の設置調整時間、接合部分の詳細など施工性の良否を確認する実験を公開した。

同社は、「超高層ビル研究会」（会長＝稲田達明）に木材を使用する「夫福岡大学工学部教授」と連携し、林野庁委託事業の「CLT等新製品・新技術利用促進事業のうちCLT実用化促進（接合部のデータ収集・分析）」を進めている。稲田教授は今回の実験概要説

いられた柱・梁鉄骨造フレームは、鉄骨の組み方、溶接の仕方、スタッドの数などで様々な仕様を用意。杉CLT床を設置する過程や前後で、鉄骨・木床の精度、床の設置時間、床継ぎ目の不陸、同隙間、床の傾き具合、梁継ぎ手の不陸、柱・梁接合部の隙間、また降雨とCLT含水率などを詳細に調査する。

公開実験では、まずクレーンで杉CLT床を1枚ずつ吊り上げ、フレームに設置していく作業が行われた。鉄骨、木床の精度が高ければ、この作業は短時間で終えることができる。設置時間はスタッドの数などにも左右されるが、1枚当たり通常なら設置と調整を合わせて5〜6分（速報値）だった。一方、クロスビス打設時間は1分当たりおおよそ6〜8分（同）。通常の高層ビルなどでコンクリート床を施工する場合は型枠施工の後、例えば100材以上の高さでもコンクリートをポンプアップして使用する。木床の場合は乾式工法であり、施工性の高さで優位性があるのは明らかになった。

今後は杉CLTの防火性能の確認（2時間耐火の取得）などにも取り組んでいく。

授は今回の実験概要説

今回の施工実験に用